

# MEIJI MURA

明治村だより  
2023 Spring  
109



## CONTENTS

明治村の建築に視る日本近代青春群像物語【九】

森鷗外・夏目漱石住宅―「猫の家と作家の誕生」(その一) …02

MEIJIMURA TOPICS …06

A La Meiji-mura

露伴の愛用品 …08 掛障子のある空間 …09

春の催しもの …10



## 明治村みらい基金

随時募集中

私たちの未来を豊かにする「明治」の価値  
一緒に残し、伝えていきませんか



## 博物館明治村 協賛会員 募集案内

博物館明治村では、歴史的建造物の修繕や展示など村内整備の充実を図るため広く皆様のご支援を募っています。

### 1. 法人会員の種類と会費(各1口あたり、消費税込)

- 一般会員 10万円
- ゴールド会員 100万円

### 2. 会費の用途

明治村で展示・保存されている建造物の修繕や、村内の整備など公益目的事業費に充てさせていただきます。

### 3. 会員期間

- 入会日より1年間  
(入会月の翌年当月末日まで)

### 4. 会員の特典

- 会員証(記名式)の発行
- 招待券の贈呈
- 刊行物等の贈呈
- 芳名の掲示
- 法人名の銘板付きベンチの設置  
(ゴールド会員のみ)

### 5. 問い合わせ先

公益財団法人明治村 協賛担当  
住所:〒484-0000  
愛知県犬山市字内山1番地  
TEL:0568-67-0314  
E-mail:meiji-info@nrr.meitetsu.co.jp

協賛会員 (令和5年3月1日現在)

敬称略:五十音順

### ゴールド会員

大成建設株式会社

矢作建設工業株式会社

### 一般会員

アイカ工業株式会社  
株式会社安藤・間

因幡電機産業株式会社  
株式会社NTTDコモ

株式会社オノコム  
キリンビール株式会社

ココヨマーケティング株式会社  
佐藤工業株式会社

清水建設株式会社  
ダイキン工業株式会社

株式会社谷澤総合鑑定所  
鉄建設株式会社

戸田建設株式会社  
株式会社長谷工コーポレーション

株式会社不動テトラ  
三井住友海上火災保険株式会社

三菱電機株式会社  
名鉄エアパートナイズ株式会社

アサヒ飲料株式会社  
株式会社磯部組

株式会社魚津社寺工務店  
株式会社NTTファシリティーズ

小原建設株式会社  
キリンビバレッジ株式会社

五洋建設株式会社  
サントリーコーポレートビジネス株式会社

株式会社新高土木  
大興建設株式会社

株式会社丹青社  
東京海上日動火災保険株式会社

西日本電話株式会社  
株式会社日立製作所

ホーチキ株式会社  
三井不動産株式会社

三菱ふそうトラック・バス株式会社  
株式会社森本組

アサヒビール株式会社  
株式会社伊藤園

株式会社エイムクリエイツ  
株式会社大林組

鹿島建設株式会社  
株式会社熊谷組

株式会社ザイマックス  
株式会社シーイーテック

株式会社スペース  
大成ユーレック株式会社

中京テレビ放送株式会社  
株式会社東芝

西松建設株式会社  
株式会社ファミリーマート

ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社  
三井不動産ビルマネジメント株式会社

名高土木株式会社  
株式会社ヤシマキザイ

厚見建設工業株式会社  
伊藤忠商事株式会社

NTP名古屋トヨペット株式会社  
岡谷鋼機株式会社

株式会社関電工  
株式会社鴻池組

サッポロビール株式会社  
柴山コンサルタント株式会社

株式会社扇港電機  
株式会社竹中工務店

スターツ東海株式会社  
東洋電機製造株式会社

能美防災株式会社  
株式会社フジタ

前田建設工業株式会社  
三菱商事株式会社

名鉄EIエンジニア株式会社  
若松物産株式会社



表紙について  
「東京名所図 東京銀座日報社」  
小林清親、明治9(1876)年

「明治村だより」第109号(令和5年春号) 令和5年3月24日発行

発行 博物館明治村

〒484-0000 愛知県犬山市字内山1番地 電話 (0568)67-0314 <https://www.meijimura.com>

製作 大日本印刷株式会社

「明治村だより」第110号発行のお知らせ

発行時期 令和5年7月中旬予定

申込方法 「明治村だより」第110号ご希望の旨、およびご住所・お名前を明記の上、送料(含発送手数料)140円とともに現金書留にてお申込みください。



写真1 現在の外観  
樹木の多いゆったりとした敷地の中流都市住宅であった

明治村の建築に視る日本近代青春群像物語〈九〉

# 森鷗外・夏目漱石住宅 — 猫の家と作家の誕生 (その一)

館長 中川 武

一 『吾輩は猫である』の舞台背景としての住宅

二 鷗外・漱石が居住した住宅

この住居はもと本郷区千駄木町五十七(現文京区向丘二―二〇七)にあり、明治二十三年(一八九〇)年九月から明治二十五年一月までのわずか一年五ヶ月の間であったが森鷗外が住んでいた。そしてその後、明治三十六

(一九〇三年一月に、約三年のイギリス留学から帰国した夏目漱石が、妻鏡子の実家にしばらく滞在した後、同年三月より明治三十九(一九〇六年)十二月まで居住していた写真)。

鷗外・漱石といえば明治の二大文豪であり、日本近代文学史上でほかに並ぶものがない。しかしながら、やはり『吾輩は猫である』、『坊っちゃん』、『三四郎』といった小説で一躍国民的作家となり、『それから』、『こころ』、『道草』など多くの作品を通して、明治という時代を根本的に見つめ続けた漱石の存在感は圧倒的である。漱石はこの住宅で雑誌連載小説『吾輩は猫である』を書き始め、書き終わった。『吾輩は猫である』には明らかにこの住宅を舞台にしていると知られる記述が満載されているから、この住宅を『猫の家』と呼ぶのも諾なるかである。むろん森鷗外も、小説『舞姫』や坪内逍遙との没理想論争等々で我が国近代文学に占めている重みは漱石にひけをとるものではないのだが、この住居での居住期間が短かったこと(註二)、そしてその後、鷗外が明治二十五(一八九二年)年から移り住み、亡くなった大正十一(一九二二年)まで居住した、同じく千駄木の『観潮楼』(跡地は現在、文京区立鷗外記念館)がむしろ彼の住宅としてよく知られていることもあり、この住居は森鷗外よりは夏目漱石の旧居としてよく知られたために『猫の家』の名が定着したのであろう。それにしても、ドイツから帰国した鷗外、そしてロンドンから帰国した漱石という文豪二人が期せずしてこの地、この住宅に住むことになったのには、何か共通点があるのだろうか。

漱石の小説は今日までも幅広い読者層に読み継がれており、文学者や文化評論家など様々な研究観点からも、国内のみならずワールドワイドに関心を抱かれていると思っ

た。ところが漱石研究家の話では、小学校高学年の生徒に漱石の話をしたところ、漱石を知らない生徒が多いので驚いた、という。漱石といえ、明治になり世の中が変わって行く中で、人はいかに生きるかを、平易な文章でヒューモアをもって問いかけた作家である。

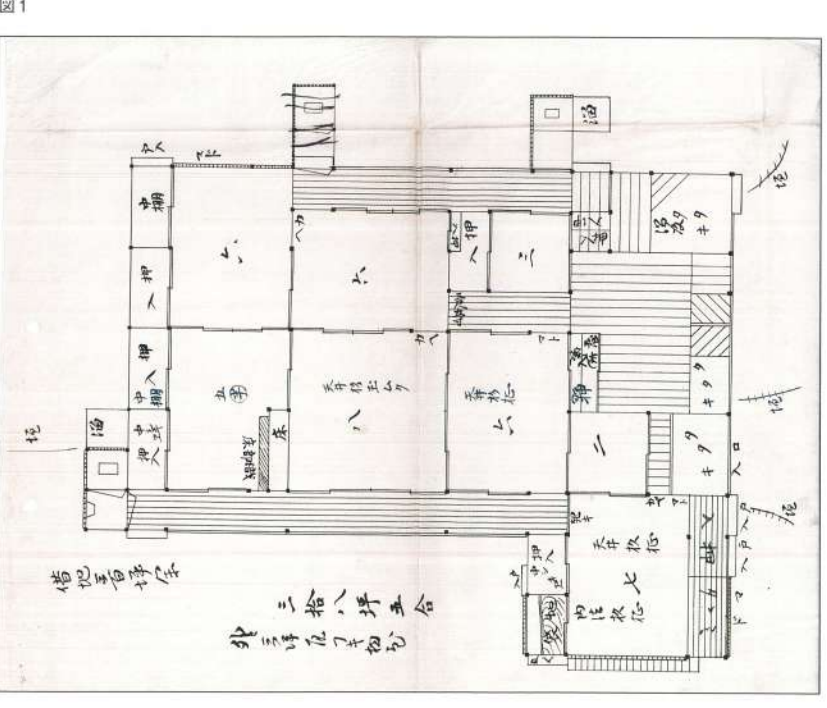
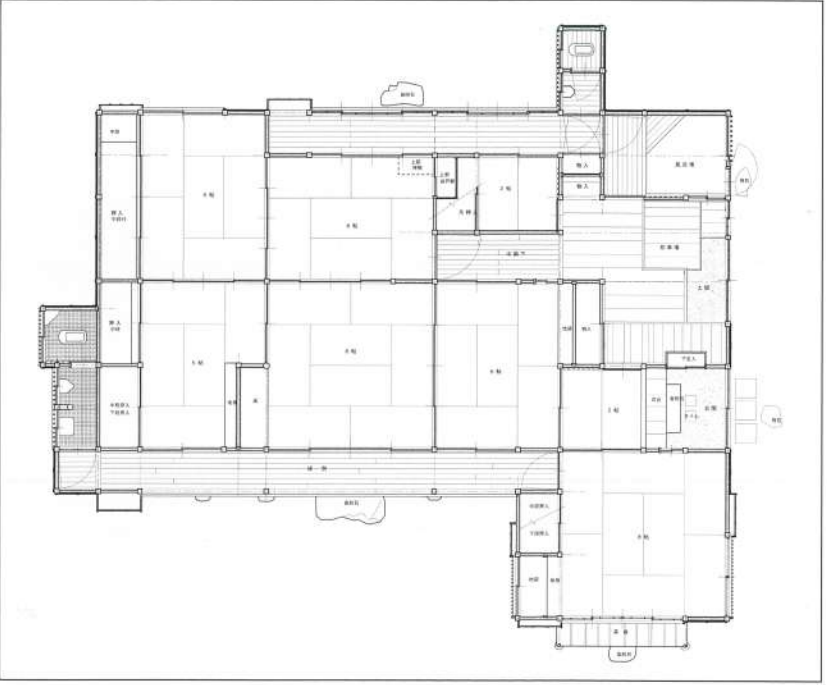
難解で深遠なテーマを子供から大人まで馴染むことができる幅広い題材で語り、広く受け入れられてきた国民的作家ではなかったか。漱石の文学がなぜ教科書から消えたのであろうか。長く親しまれてきた『モノ』『人』も、新しい『文化』『感覚』の中で淘汰され消えてゆく。目まぐるしい速さで進んでゆく時代や新しい文化の浸透を柔軟に受け入れつつも、拭いきれない漠然とした不安、消えゆく古い文化への惜別―海外で異文化を身に染みて体験した漱石と鷗外は、そのような気持ちを抱えていたのではないだろうか。明治時代中期頃の西洋的近代と日本の伝統との確執とその影響は、形を変えながら文学的思考や作家の感受性、さらに近代人の神経症的な心の在り方にまで及ぶ。

「千駄木」という、近代都市・東京の中にありつつ古い江戸の面影を残した地で、伝統的な一戸建て平家でありながら、構造には新しい生活様式に適した住まいの息吹も感じさせるこの家を二人の文豪がそろうって選んだ背景には、鷗外と漱石が生活を侵食していく西洋的近代の生活・思考と日本の古いそれとの狭間にあって両者から大きな影響を受けていたことと無縁ではない、と考えてよいのではないだろうか。

二(一)都市居住小説としての『吾輩は猫である』

『吾輩は猫である』(以後『猫』と略)の舞台背景の説明の多くが鷗外・漱石住宅(以後『猫』

森鷗外・夏目漱石住宅 平面図



家』と略)の様子そのものであったとしても、登場人物や出来事はあくまでフィクションである。『猫』での苦沙弥先生の家の記述と、現実の『猫の家』が異なっている場合、なぜ違うのかを問うことで、小説内で苦沙弥先生の家に仮託された役割が推考されるかもしれない。

『猫』は多彩な生活の場面を次々と『吾輩』猫の目線という組上に載せていくだけのようでありながら奥深い世情批評とヒューモアが思わぬ展開で吹き出し、読者の興味を巧みに捉えて離さない。作中に起こるさまざまな出来事を整理・考察した長山靖生氏の評論がある(註三)。長山氏は、『猫』の構造を

一、主人公・苦沙弥先生を取りまく『モノ』  
二、『猫』の中で起こる出来事やブーム  
三、苦沙弥先生をめぐる人々  
四、ニューファミリー・珍野家の光と影  
五、『猫の家』と新時代の風景

という章立てで整理し、解説を加えている。長山氏によればこれらの出来事はほとんどが『吾輩』猫の目を借りて主人公である苦沙弥先生の生活と心理の流れを観察・批評したものである。そして『猫』の文章には、これらの出来事の『舞台』としての苦沙弥先生の家、その近隣地域、苦沙弥先生の行動範囲にあった当

時の近代都市・東京の様子を彷彿とさせる生き生きとしたリズムと力がある。『猫』に描き出される苦沙弥先生の家を味わい、執筆当時の千駄木と周辺の都市環境の中にあつた現実の住宅『猫の家』とを行き来しながら両者を見比べ、鑑賞することは得難い醍醐味だといえよう(註一)。

①『猫の家』内部  
見どころは満載であるが、ここでは二点を採り上げたい。まず、書斎は八畳か六畳かという問題である。『猫』では六畳であると述べている。『猫の家』はもともと牛込の実業家が、



次の間から床の間付の格式の高い応接室を欄間でつなぐ  
応接室の奥は寝室、右手は茶の間



台所上部には小屋組がみえる

台所



茶の間は長火鉢・神棚・釣り戸欄等があり、短い中廊下が台所から伸びている  
中廊下の右手が次の間、左手が女中室



小書斎・明かり取り窓のアルコーブが化粧天井となつている



次の間と中廊下壁の潜り戸



子供部屋と北の縁側壁の潜り戸



玄関脇(書斎壁)の潜り戸



写真3 客間等の南側の縁を介して、かつては茶畑が見えた

「猫の家」断面図

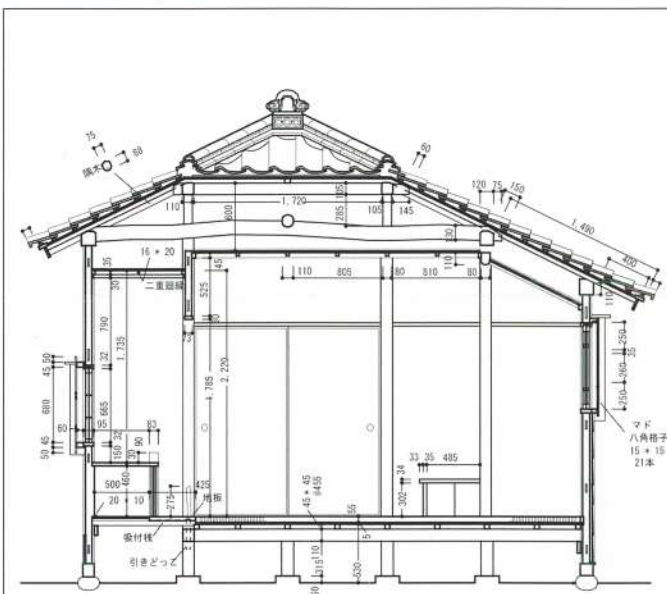
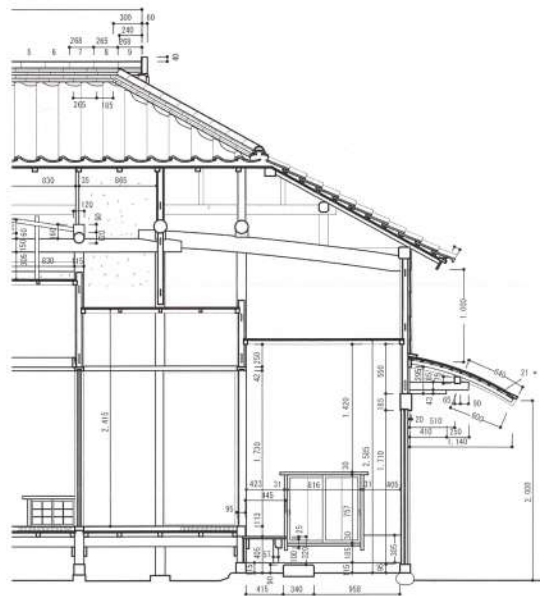


図3 書斎 断面図



参考 台所の土間吹き放し天井 断面図



写真2 書斎西側と明かり取り窓付地袋

息子で当時東京帝国大学医科大学生であった中島襄吉の開業を見越して明治二十年頃に建てた。しかし襄吉は卒業後に勤務医となったため、この家は空き家となった。その後、明治二十三年九月に森鷗外が借りて居住したこと

になっていく。創建時にはこの書斎は診療室に目論まれていたと思われるが、取り立てて洋風の工夫が加味されていたとは思えない。鷗外がこの部屋をどのように使っていたかは不明であるが、鷗外が退去した後、斎藤阿具という人物がこの家を購入し、平面図を残している(図2)。彼の古図には書斎は八畳で、その東北隅には一間の押入れが記されている。そして斎藤が都合でこの住宅を一時空けることになったので、漱石が一時的に借りたのだった。明治村への移築前にはこの押入れが取り去られており、西側が二間の浅い押入れになっていた(写真2)。解体時の痕跡調査により西側壁面は地袋、明かり取り格子

2 「猫の家」外部

窓と押入れ、また東側は一間の押入れに復元されたが、この造りがいつの頃のものはわからない。この東側半間が化粧屋根裏天井であったことが書斎として特異な室内意匠であることを移築時の調査者がコメントされている。おそらく屋根全体が寄棟造で、四方に半間の庇が巡っていたため、外側半間が化粧屋根天井となったと考えられる(図3)。漱石は後の住居「漱石山房」に越す以前から大量の書籍に囲まれていた様子がうかがわれるので、実際は八畳のこの書斎を感覚的に六畳ぐらいと認識していたのではないだろうか。

小説中、「吾輩」猫は苦沙弥先生の家から出て神出鬼没に隣り近所を徘徊する。苦沙弥先生の家の西側にある広い空地を隔てて

「落雲館」と名付けられた中学校の校舎と運動場が存在し、ここでもドタバタ喜劇が演じられる。これは実際、今日も「都文館」という名の広い運動場を持つ中学校が存在するもので、さもありなんといたところか。ところが、苦沙弥先生の家の北隣りにある二弦琴師匠邸と南隣りの車屋、そして一丁ばかり先の金田邸の豪華な洋館等は、実際にそのような住宅が存在していたかどうか確認できない。ほかにも角の酒屋や牛乳屋など、下町風景とまではいかないが、今日見られるような住宅地の様子とは異なる趣の街が描かれている。

旧御府内(旧江戸市内)はその大部分が武家地跡で、わずかな残りを寺社地と町人地で分け合っていた。明治二十年代から三十年代頃の、いわゆる山の手のサラリーマン住宅は、割合ゆつたりとした敷地の一戸建て平屋住宅が多かったようだ。漱石が住んだ「猫の家」も、広い南庭から隣家の茶畑(当時東京の住宅地にもさかんに植栽されていた)を眺めることができた。また南北両隣りには、うっそうとはいかないまでも檜と桐の木が生い茂っていたので、周囲は竹垣などで軽い境界を設けていた(写真3)。小説「猫」でも描き出されてきた隣り近所との複雑な付き合いだけでなく、漱石は神楽坂、お茶の水、上野、神田、日本橋あたりまで散歩していたことが知られている。

また、当時開店したばかりの百貨店「三越」や「白木屋」で買い物をしていたようだが、小川町あたりの勤工場(雑貨などの陳列販売マーケットのようなもの)もしばしば冷やかしていたようだ。『猫』の一文に、豪邸・金田家と比べて吾が家(苦沙弥先生の家)を「屋根にペンペン草の目標あるロウ屋」と述べているが、実際には漱石は築二十年にも満たない

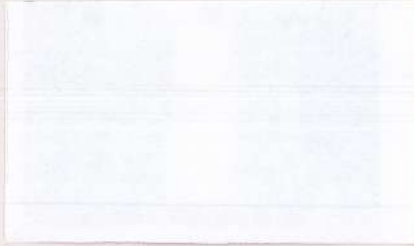
頃に「猫の家」に入居しているから、屋根にペンペン草が生えるには少し早い。当時の金権主義的なご時勢に対して、取るに足らないペンペン草の風情を愛する反近代主義的心情の表明でもあっただろう。要するに明治二十年代から三十年代にかけての東京という近代都市の深みに居住することの意味を、鷗外も漱石も、意識的・無意識的に求めているに違いない。

註一 森鷗外はこの住居を「千代山房」と名付けていた。  
註二 長山靖生「吾輩は猫である」の謎」文春新書 一九九八年  
図面出典 「国登録有形文化財(建造物)森鷗外・夏目漱石住宅及び神戸山手西洋人住居保存修理工事報告書」博物館明治村 二〇〇六年

## 「明治村のクリスマス」を開催

「聖ヨハネ教会堂」(重要文化財)「聖サビエル天主堂」などの教会堂を中心に、11月26日(土)から1月9日(月・祝)までクリスマスの飾りつけを行いました。

また「聖サビエル天主堂」では、12月18日(日)に師勝はなの樹幼稚園のハンドベル演奏、12月25日(日)にはバビヨンフレンズによるクラリネット・オーボエ・ピアノのコンサートを行いました。



## 「郷土玩具『うさぎ』と泉鏡花の美しき装丁の世界」展を開催

12月23日(金)から2月12日(日)まで「千早赤阪小学校講堂」にて「郷土玩具『うさぎ』と泉鏡花の美しき装丁の世界」展を開催しました。令和5年の干支・卯にちなみ、日本各地のうさぎの郷土玩具や、うさぎの玩具をこよなく愛していた作家・泉鏡花の書籍の装丁をご紹介します。



## 「明治村の雛祭り」を開催中

3月3日(金)は桃の節供、女子の健康と幸せを願う雛祭りです。F.L.ライトが設計した「帝国ホテル中央玄関」は今年で設計100年を迎えます。東京に在りし頃の季節毎の飾りつけでのおもてなしを偲び、2月4日(土)より博物館明治村では本年の「明治村の雛祭り」を「帝国ホテル中央玄関」エントランスにて開催しています。ご寄贈いただいた近代の古今雛(江戸時代末に江戸で登場し、近代にかけて人気を博した伝統にとらわれない華麗な公家装束を着けた雛人形)や土雛(日本各地で作られていた、素焼きの上に彩色を施した素朴な雛人形)、雛道具を飾っています。

また、「西園寺公望別邸《坐漁荘》」1階の床には「犬宮」を展示しています。



## 「SLオーバーホール基金」寄附者対象のSL特別撮影会を実施

村内で動態保存しているSL12号(明治7(1874)年輸入)及びSL9号(明治45(1912)年輸入)の定期的な大規模修理工事のための基金「SLオーバーホール基金」へ20口\*以上のご寄附を頂いた方々に限定して、12月17日(土)SL特別撮影会及び12号に客車を連結しての特別試乗体験を実施しました。 ※1口10,000円



## 「日本各地の門松・しめ縄めぐり」 「新春書道パフォーマンス」を開催

明治村では移築建造物の旧所在地にちなんだ門松(「第八高等学校正門」「東松家住宅」など9か所)、しめ縄(「大井牛肉店」「森鷗外・夏目漱石住宅」など18か所)を12月23日(金)から1月30日(月)まで飾りました(門松は1月15日まで)。併せて、各地の正月飾りの特徴などを紹介したワークシートを窓口・村内各所で配布し、それぞれの移築建造物の旧所在地での正月飾りをご紹介します。



また、1月2日(月・祝)3日(火)の両日、「第四高等学校武術道場《無声堂》」において、書道家・玲泉さんがバイオリニスト・高橋英輔さん、三味線・浅野祥さん(3日のみ)の演奏に合わせて賀春をテーマに書道パフォーマンスを行いました。

## 【第69回文化財防火デー】 犬山市消防本部と合同訓練を実施

文化財防火デー(1月26日)にちなみ、1月27日(金)、犬山市消防本部と明治村自衛消防隊は合同で消防訓練を行いました。本訓練は、火災などの災害から貴重な文化財を守るとともに、お客様の安全を図るため、適切な通報・連絡、初期消火、避難誘導体制の確立を目指した訓練です。

訓練は、当館が保存する「東松家住宅」(重要文化財)からの出火を想定し、実際に火災報知ベル鳴動・村内放送・発煙発火装置作動を行い、明治村自衛消防隊11名と犬山市消防本部が合同で一斉放水を行いました。



## 深堀隆介氏による ライブペインティングおよび スペシャル鼎談を開催

夏企画「金魚絵師 深堀隆介展 僕の金魚園」関連イベントとして、8月11日(木・祝)に名鉄岩倉変電所にて深堀隆介氏によるライブペインティングおよび深堀隆介氏・阿川佐和子村長・中川武館長によるスペシャル鼎談を開催しました。ライブペインティングで制作された作品は、東松家住宅で開催された「深堀隆介×東松家住宅 インスタレーション」の中で2階廊下の障子絵として展示しました。



# MEIJIMURA TOPICS

## ▶2022.8-2023.3

## 海上保安庁第四管区海上保安本部による 「水路記念日企画展示～海の情報未来を拓く～」を開催

明治4年、兵部省海軍部に水路局が設置され、日本が単独で海の測量から海図の作成まで一貫して行う本格的な業務を開始してから令和4年で151年を迎えました。現在、この業務は海上保安庁海洋情報部が実施しています。第四管区海上保安本部では9月12日の「水路記念日」を迎えるにあたり、8月6日(土)から8月28日(日)まで「北里研究所本館・医学館」2階で「水路記念日企画展示～海の情報未来を拓く～」を開催しました。明治時代の古海図や3D海底地形図等をパネル展示するほか、最新の海洋調査技術をパネル紹介しました。



## 海上保安庁第四管区海上保安本部による「灯台記念日154周年記念イベント」を開催

11月1日「灯台記念日」に合わせ、第四管区海上保安本部は「灯台記念日154周年記念イベント」を10月28日(金)から10月30日(日)まで、品川燈台・菅島燈台付属官舎(博物館明治村内)前広場で行いました。

イベントでは各種灯器や灯台写真パネルの展示、海上保安庁の制服着用体験やパンフレット配布とともに、品川燈台内部の特別公開と博物館明治村学芸スタッフによるガイドを行いました。

## 鼎談「ジブリの想い 明治村の想い その先にあるもの」を開催

「愛・地球博記念公園(モリコロパーク)」に11月1日「ジブリパーク」が開園したことに合わせ、11月26日(土)に呉服座にて三鷹の森ジブリ美術館 館長・安西香月氏と明治村村長・阿川佐和子氏、明治村館長・中川武とで鼎談を行いました。ジブリ作品に描かれた世界と明治村との共通点や相違点、開かれた博物館づくりについてのトークをお楽しみいただきました。

## イベント「IMA-風呂と台所と私の暮らし 急の段」を開催

11月11日(金)～13日(日)、「第四高等学校武術道場《無声堂》」および「呉服座」で、檜創建株式会社主催、博物館明治村協力でイベント「IMA-風呂と台所と私の暮らし 急の段」を開催しました。「無声堂」では浴室と台所の製品展示を行ったほか、12日(土)は「呉服座」にて建築家・坂茂氏の講演会、13日(日)は「無声堂」にて現代美術家・木村若菜氏によるライブペインティングが行われました。



# A La Meiji-mura

写真1 神戸山手西洋人住居(主屋より)



「神戸山手西洋人住居」はもともと神戸市生田区(現 中央区)の外国人住居地域にあった住宅で、創建は明治二十年頃と推測されています(写真1)。所有者は何度か替わっており、昭和元年以降明治村へ移築される昭和四十一年までは貿易商オツベネメール社の取締役であったフランス人フェルナン・ブルムという人物が居住していました。この住宅は主屋と付属屋の二棟から成る明治時代中期の神戸外国人住宅の典型例です。この二棟は二階の渡り廊下で往来できる構造になっています(写真2)。主屋は洋間の西洋風建築ですが、二階渡り廊下の扉を開くと付属屋二階は和室になっています。渡り廊下の正面にあたる北側の土壁面には丸窓が開けられており、ここに掛障子が取り付けられています(写真3)。この掛障子を外すと丸窓には板ガラスが嵌め殺しになっており、また飾り木

## 掛障子のある空間

3丁目32番地  
神戸山手西洋人住居



写真2 二階渡り廊下(主屋から付属屋)

が壁に埋め込まれています(写真4)。十畳の和室は西面縁側から外光が室内へ差し込んで、明るい室内です。北面の壁にあえて丸窓を開け、掛障子を付ける必然性は低いといわざるをえません。

掛障子は茶室の床窓といった小さな窓の室内側・室外側に付ける取り外しのできる障子で、現存最古の茶室である国宝「待庵」(京都府乙訓郡大山崎町)にも掛障子が取り付けられているのを見ることが出来ます。明治村内では「茶室(亦楽庵)」でも下地窓の室外側に取り付けられた掛障子を見ることが出来ます



写真3 付属屋二階 和室



写真4 掛障子を外した丸窓



写真1 慳食式の本箱



写真2 文机



## 露伴の愛用品

3丁目26番地 幸田露伴住宅「蝸牛庵」

3丁目の「幸田露伴住宅(蝸牛庵)」(以下、「寺島蝸牛庵」と表記)には、露伴が書斎として使用したゆつたりとした書院に露伴の愛用品である本箱と文机を展示しています(写真1、2)。本箱は和本を納めるためのもので、上下の溝に蓋をはめ込む慳食式となっています。慳食蓋の本箱は江戸から明治にかけて書物に冊子形式が多くあり、その書物が一般大衆にも普及したため多く用いられました。桐箆筒同様の機能的な素木造りが多いとされています。露伴の本箱も桐の素木造りで、中は棚が設けられています(写真3)。露伴の晩年を写した写真には、露伴の背後に明治村にある本箱とよく似たものが見え、中は並んでおり(写真4)、露伴が愛用したものであることが推断されます。この積まれた本箱は露伴の孫・青木玉にもよく記憶されており、「寝室になっていく部屋に



写真3 本箱の内部

すらっと桐の慳食と言っていた本箱がレング積みになって互いがいに上下二段に並んでいました。…(中略)…よく端から何番目の慳食の上をあけてな、上から何番目の本をもってきなさい」と祖父に言いつけられました。」と露伴とのエピソードを語っています(註)。玉によれば本と共にはほとんどが戦災で焼けたとあり、明治村のものは戦災を免れた貴重な本箱です。文机は、寺島蝸牛庵の後に引越した先での写真にその姿が残っていました(写真5)。縁側に向かって文机を置くのがお好みであったようですので、明治村でも同様の配置をしています。

これらの愛用品を手掛けたのは、著名な木工芸の作家・木内半古(一八五五～一九三三)。暮年から昭和にかけて、叔父で養父である喜八、子である省古と三世代にわたり活躍しました。半古は江戸神田

白壁に生まれ、象嵌細工や木工を生業とする喜八の養子となり、十三歳のころより喜八に木工の手ほどきを受け技を磨きました。明治二十一年(一八八八)年、正倉院宝物を調査し修復を担う機関である正倉院御物整理掛に木工の技術者として任命され、正倉院宝物の修復や研究を通して多くの名品を遺し、数々の賞を受賞しています。

治二十一年(一八八八)年、正倉院宝物を調査し修復を担う機関である正倉院御物整理掛に木工の技術者として任命され、正倉院宝物の修復や研究を通して多くの名品を遺し、数々の賞を受賞しています。どのようにして露伴が半古に依頼するに至ったのかは不明ですが、二人は寺島蝸牛庵のご近所同士でした。様々な書籍で言及がある通り露伴と半古は交流があったようです。

明治村では、建物の移築のみならず建物にゆかりのある品々もともに収集・保存し、建物の旧所在地の風土や、建物の使われ方も含めてご体感いただくことを目指しています。露伴が愛用した文机や本箱とともに寺島蝸牛庵での暮らしの一部をご体験いただければ幸いです。

註 青木玉対談集「祖父のこと 母のこと」小沢書店 平成九年

### 参考文献

- 小泉和子「ブック・オブ・バックス 日本美術五十年 和家具小学館、昭和五十一年
- 青木玉対談集「祖父のこと 母のこと」小沢書店 平成九年
- 奈良国立博物館特別陳列「名匠三木 木内喜八 半古・省古の木工芸」平成二十七年
- 編谷賢「幸田露伴 中央公論社、昭和四十三年

し(写真6)、「東松家住宅」二階に設えられている三畳半の茶室には床窓・北面の窓・東面の窓・南面の窓に掛障子が取り付けられています(写真6)。掛障子は棧を設けることができ、狭い壁面に開けられた窓にも取り付けことができ、また余分な建具のないすっきりとした姿を演出できる利点があります。このような利点ゆえ、掛障子はしばしば狭い茶室空間で用いられています。



写真5 茶室亦楽庵 掛障子



写真6 東松家住宅二階 茶室

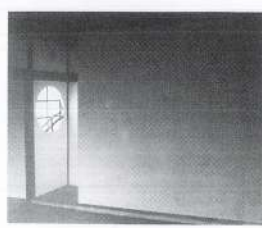


写真7 移築前の和室内観(仕切り壁部分)

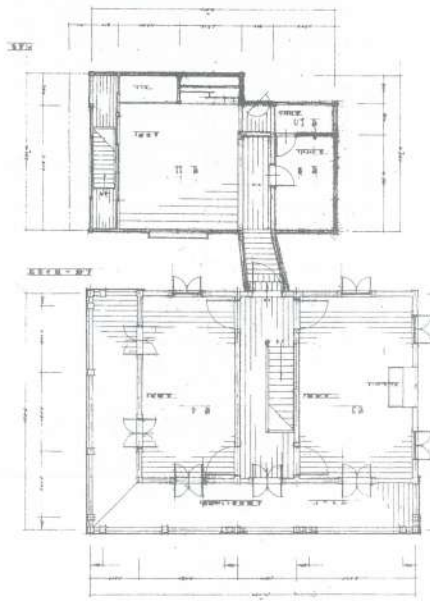


図 神戸山手西洋人住居 二階部分 平面図(移築前)

ブルム氏のメイドをこの家で四十年務めた女性によれば丸窓はもととも障子であって、のちにガラスを嵌めたようです。また、解体移築当時は二階には仕切り壁が設けられ、現在の和室は通路と部屋とに壁で

主要参考文献  
「国登録有形文化財(建造物) 森鷗外・夏目漱石 住宅及び神戸山手西洋人住居保存修理工事報告書」博物館明治村、二〇〇六年三月

「リードオルガンの日」制定記念イベント

6/1が「リードオルガンの日」に制定されたことを記念して開催します。



6/1(木) リードオルガンの歴史を紹介するパネル展示のほか、小中学生を対象にした館蔵のリードオルガンを使った演奏体験。

6/4(日) 館蔵のリードオルガンを使った演奏体験やコンサート。

会場 聖ヨハネ教会堂 共催 日本リードオルガン協会

お問合せ・詳細 日本リードオルガン協会  
https://nihonreedorgan1996.simdif.com/

花と果実グルメ

~7/23(日)

春を感じる色鮮やかなグルメが大集合! ぜひご賞味あれ。

エディブルフラワーのごちそうサラダ

850円  
明治の洋食屋  
オムライス&グリル  
浪漫亭【5丁目】  
食べられる花「エディブルフラワー」をあしらった、目でも舌でも楽しめる華やかなサラダです。

フルーツカレー

950円  
食道楽のカフェ  
【4丁目】  
意外!? カレーの辛さに、フルーツの酸味と甘さは相性バツグン!  
※6/25(日)までのご提供

桜もちと梅昆布茶のセット

600円  
和食処 碧水亭  
【1丁目】  
手作りの桜もちと梅昆布茶を、入産池と日本庭園を望みながらご賞味ください。

莓のアイス

500円  
「食道楽の  
ココット」の店  
【5丁目】  
なんと! 莓の中にパナコアイスが  
見た目も可愛い一口アイスです。  
※6/25(日)までのご提供

菜の花クリームオムライス

1,200円  
明治の洋食屋  
オムライス&グリル  
浪漫亭【5丁目】  
ふわとろ卵のオムライスに菜の花の入ったクリームソースをかけて、春らしい一品に仕上げました。

サングリア

〜レモンスライス添え〜  
500円  
「食道楽の  
カレーばん」の店  
【2丁目】  
フルーツで、濃厚な味わいの赤ワイン風ドリンクにレモンスライス添えました。(ノンアルコールドリンクです)

その他のグルメもご用意! ※商品によりご提供期間が異なります。 ※売り切れの場合はご容赦願います。

明治謎解きアトラクション

江戸川乱歩の不完全な事件帖

十二面相からの予告状 → 7.23 Sun.

全コースクリア キャンペーン 5.13 Sat.~なくなり次第終了  
※解決印が押された6コースすべての冊子を明治新聞社(受付)でご提示ください。

- 先着で1,000名様! Scoop 00 ~ 05 のすべてのコースをクリアされた方にはオリジナル記念品をプレゼント!  
探偵七つ道具! 「探偵手帳(風ふせんブック)」
- さらに! 全コースクリアした方へ! 「江戸川乱歩の不完全な事件帖」オリジナルクリアファイル(透明怪人)」

明治村住民登録票を提示してお得に挑戦しよう!!

Scoop 00 ~ 03 各コース 50円引き

Scoop 00 01 02 03 セット 2,100円

お得なセット販売

Scoop 00 01 02 03 セット 2,200円

謎解きの流れ

- 1 太郎の「荒筋」を手に入れよう!  
明治新聞社(受付)で「参加キット」(Scoop00~05)を購入しよう!
- 2 太郎と金之助と共に取材に向かえ!  
「参加キット」に書かれたルールをしっかりと読んで取材開始!
- 3 記事を完成させよう!  
手がかりをもとに証言や真実を集め、記事を完成させよう!
- 4 新聞発行!  
取材結果を記入し、明治新聞社(受付)で報告しよう!

受付 明治新聞社(正門・北口 付近特設) 時間 9:45~16:30  
※コースによっては仕組みが異なる場合があります。詳しくは各コースの「Scoop内容」をご覧ください。 ※歴史的建造物を活用したアトラクションのため、一部バリアフリーではない場所がございます。あらかじめご了承ください。

舞台は明治のとある新聞社——

若き女性編集長「春子」のもとで「確かな事実だけを記事にする」を信念とし、春子の幼馴染にしてこれまでに数々のスクープをものにしてきた敏腕ジャーナリスト「金之助」、新米記者の「あなた」を中心に様々な記事を世に放っている。ここでは、富豪やら博物館やらに予告状を送り付けては得意の変装と巧妙な手口で金銀財宝を盗み出していく世紀の大怪盗「十二面相」の話題で持ちきりであった。太郎「春子さん! 新しい原稿ができました! 巷を騒がせている十二面相の予告状を主題にして書いてみたんです!」金之助「これまた大スクープの予感だな」金之助はいつものとおり太郎の荒筋だけの原稿を読むなり、太郎の手を引き新聞社を出ていってしまう。大胆不敵・神出鬼没の大怪盗と真実を追求する新聞社を主題にした、太郎の「荒筋」からまたもや事件は動き出す——  
~神出鬼没の大怪盗 十二面相からの予告状~

江戸川乱歩の不完全な事件帖 コラボグルメ

登場キャラクターをイメージしたスペシャルメニューをご用意!

~7.23 Sun.~

薯蕷饅頭と抹茶のセット  
800円 京甘味処 なか井茶寮【2丁目】  
芋のほのかな香りとしっとりとした食感の薯蕷(じょうゆ)饅頭は、江戸川乱歩が愛した和菓子です。  
※写真は、薯蕷饅頭を半分カットしてあります。

支那そば 1,000円  
めん処 なごや庵【3丁目】  
若き江戸川乱歩が高いとして営んだ支那そば屋。シンプルで懐かしい味にチャーシュー3枚と煮卵をトッピング。

穴子天丼 1,650円  
和食処 碧水亭【1丁目】  
江戸川乱歩も食べた!? 穴子天やえび天に加え、タケノコ天などものった豪華で春らしい天丼です。

変身フロート 650円  
デンキブラン 夕留バー【4丁目】  
十二面相が得意とする変装のように次々と色が変化していく不思議なドリンク。レモンアイスと、宝石に見立てた琥珀糖で彩りました。

その他の「江戸川乱歩の不完全な事件帖」をさらに楽しめる情報は明治村公式HPをチェック!

四季折々の明治村

年中行事を通じて季節を感じよう!

季節にちなんだしつらいり飾り、イベントを年間通じて行います。

雛飾り(上巳の節供)



衣装雛と土雛をご紹介します。

期間 ~4/2(日)  
会場 帝国ホテル 中央玄関

しょうぶ菖蒲飾り(端午の節供)



武者人形や菖蒲、こいのぼりを飾り、端午の節供を祝います。

期間 4/1(土)~5/28(日)  
会場 村内各所

七夕飾り(七夕の節供)



短冊に願い事を書いて笹に飾ろう!

期間 6/24(土)~7/9(日)  
会場 三重県尋常師範学校・蔵持小学校前

明治芸能祭 会場 呉服座

※イベント開催日および、前日は呉服座の建物ガイドを終日中止します。

舞台「坊っちゃん」

笑いあり、感動ありの「坊っちゃん」の世界へようこそ! 物語は過去に上演した「坊っちゃん」が松山に行つてからのオリジナルストーリーをリメイク。明治偉人隊も出演。

開催日 4/8(土)・9(日)  
時間 ①11:30~②14:30~(各回約50分)  
出演 兵頭祐香、斎藤美七海、名古屋虎三郎、福田勝明、小宮山郁美、明治偉人隊  
脚本 斎藤美七海 演出 兵頭祐香  
制作 BEAT企画



呉服座(重要文化財)

日本舞踊西川流公演

180年の歴史をもつ日本舞踊西川流の舞踊家たちによる新感覚の舞踊劇を公演します。

開催日 5/28(日)~6/18(日)の毎日曜日  
時間 ①11:30~②14:30~(各回約40分)  
脚本・演出 西川カーク(西川流別格師範)

きもので歩く明治村

4/1(土)~30(日) 春の花咲く明治村をきもので散策して自分だけの写真を撮ろう!



期間中、きものでご来村いただく入村料が半額に!  
※浴衣・甚平・作務衣は対象外です。

犬山日和 きのものレンタルと明治村入村券のお得なセット!  
お気に入りのきものを着て、春の明治村を散策しよう!

期間 ~4/30(日)  
料金 4,800円(明治村入村券、きのものレンタル・着付け料込み)  
※大人のみの設定。※男性用もご用意しております。

お申込み・お問合せ 着物&浴衣レンタル 犬山日和  
犬山市犬山東古券195 TEL:0568-61-2532  
※明治村でのお取り扱いがございません。

観て、触れて、知る、喜び

明治体感

事前予約制 明治村茶会

歴史的建造物を用いて開催するお茶会です。どなたでもお気軽にご参加いただけます。

開催日 4/14(金)・15(土)

席主

- ・坐漁狂・亦楽庵席(濃茶) 藤田美術館
- ・学習院長官舎席(薄茶) 木田 公洋氏
- ・東松家住宅(立礼席、薄茶) 下村 宗隆氏

※申込は終了いたしました。



事前予約制 春のフォトウェディング現地相談会

「本物」の歴史的建造物を舞台にしたフォトウェディングや挙式・披露宴などを会場としてご提案いたします。

開催日 4/16(日)

会場 名鉄若岩変電所

<開催等の詳細および、ご予約・お問合せ>  
明治村ウエディング・アニバーサリーフォトデスク  
TEL:0120-108-716



10,000ピースのつみきを  
ご用意する子ども向け屋内施設  
「つみきひろばGabe」で  
おもいっきりあそぼう!



会場 聖ヨハネ教会堂

※別途利用料金が必要です。

詳しくは明治村公式HPをご覧ください。



明治をみつめる。Meiji-Note

なるほど明治!なメディアサイトを公開中。あなたのまわりにも明治時代のルーツのものが!?

https://www.meijimura.com/meiji-note/

